

第5学年 単元別学習内容一覧

◎ 算数のとびら（算数の学習の進め方）				
小単元	時	ページ	学習内容	
(課題設定)	1	4～8	○小数の加法・減法の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	

1 整数と小数					
目 標				指導時数・時期	
○ 整数や小数について、10倍や1/10にしたとき的小数点の移動の仕方を考えることを通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1時間 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬	
評 価					
(知) ・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍した数や、1/10、1/100、1/1000にした数を求めることができる。 (思) ・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を10倍、100倍、1000倍したり、1/10、1/100、1/1000にしたりしたとき的小数点の移動の仕方を考えている。 (態) ・小数と整数の仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	254	・4年「小数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	10	◆63.4を1/10した数を1や0.1の1/10をもとにして考える。	○整数や小数の仕組みを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○小数点の位置に着目し、整数や小数を10倍、1/10にしたときの表し方を考えることができる。	★数を100倍、1000倍したり、1/100、1/1000したりする。
		11			
	2	12	◆前時の表と比べ、小数点の位置がちがうことを確認する。 ◆問4で、10倍は×10、100倍は×100、1000倍は×1000であることを確認する。 ◆問5では、5.71と比べて小数点がいくつ動いているかに着目する。	○10倍、100倍、1000倍したとき的小数点の位置の移動について考え、数の仕組みを理解する。	★小数点の移り方の特徴から自分の力で本時をまとめる。 ★p.258「もっと練習」の問1に進む。
	3	13	◆問8では、1/10は÷10、1/100は÷100、1/1000は÷1000であることを確認する。 ◆問9では、29.3と比べて小数点がいくつ動いているかに着目する。	○1/10、1/100、1/1000にしたとき的小数点の位置の移動について考え、数の仕組みの理解を深める。	★p.258「もっと練習」の問2に進む。
学びのまとめ	4	14～15	◆問4では、いちばん大きい数から順に考える。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返る。 ◆余裕のある児童は「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。 ○「やってみよう」に取り組む。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

2 体 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体や立方体の体積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、体積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬	
評 価					
(知) ・体積や容積の意味がわかり、単位「cm ³ 」「m ³ 」を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。 (思) ・長方形や正方形の面積の求め方や公式をもとにして、直方体や立方体の体積の求め方や公式を考えたり、これを利用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりしている。 (態) ・直方体や立方体の体積の表し方や求め方に進んで関わり、ふり返りを通して適切な普遍単位を用いて大きさを数値化することのよさや公式を導き活用する意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	254	・4年「面積」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	16	◆直方体と立方体の意味を確認する。	○直方体と立方体の大きさ比べを通して、体積について考えていくという単元の課題をつかむ。	★問2で、体積の数値を変えて形をつくったり、形をつくってから体積を考えたりする。
① 直方体・立方体の体積		17	◆1辺が1cmの立方体の積み木を用意し、実際に図のような立体を作って数える。	○体積の単位 cm ³ について知り、cm ³ を使って体積を表す。	

	2	18～19	<p>◆問1では、積み木を並べて、その数の数え方に着目させる。</p> <p>◆問2は、②と③④のみに取り組み、①と④⑤は次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。</p>	<p>○縦3cm、横5cm、高さ4cmの直方体と1辺4cmの立方体の体積を、計算で求める方法を考え、公式を導く。</p> <p>○公式を使って、直方体や立方体の体積を求める。</p>	<p>★p.28問3のような、体積と縦と横がわかっていて高さを求める問題をつくり、自分で解いたり、解きあったりする。</p> <p>★p.258「もっと練習」の問3に進む。</p>
	3	20～21	<p>◆問1では、まず、水槽などでは、外側と内側とで厚みの分だけ長さが異なることを確かめ、内の方に着目させる。(真横からの図と真上からの図を用意する)</p> <p>◆問2では、実際の1Lますを使って1L=1000cm³であることを確かめる。</p>	<p>○容積の意味を知り、直方体の形をした水槽の容積の求め方を考える。</p> <p>○水などの体積を表すときによく用いられる単位Lとcm³の関係を理解する。</p>	<p>★余裕のある場合には「算数ポケット 1Lのいれものづくり」に挑戦する。</p>
	4	22～23	<p>◆まず、L字型の立体図形の中に直方体がないかを考えさせる。</p>	<p>○L字型の立体図形の体積の求め方を考え、説明する。</p>	<p>★L字型の平面図形の学習を想起し、複数の解き方を考え、式を読んだり、相違点について話し合ったりする。</p> <p>★p.258「もっと練習」の問4に進む。</p>
② 大きな体積	5	24	<p>◆問3では、1mものさしなどで1m³の大きさをつくり、1cm³の積み木と比べて、1m³=1000000cm³になることをとらえさせる。</p> <p>◆問4は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。</p>	<p>○縦4m、横3m、高さ2mの直方体の体積を求めるのに、1m³の立方体を単位とすればよいことに気づく。</p> <p>○体積の単位m³について知り、m³を使って体積を表したり、cm³との関係を理解したりする。</p>	<p>★問3では、面積との関係について考える。</p> <p>★p.258「もっと練習」の問5に進む。</p>
	6	25	<p>◆問2では、長さを想定して公式に当てはめて見当をつけるとよい。</p>	<p>○1m³の大きさをつくり、その量感をとらえる。</p> <p>○いろいろなもののおよその体積や容積を、見当をつけてから調べる。</p>	<p>★問2では、消しゴムの体積が6cm³という判断から、縦、横、高さがいくらかを見当づける。</p>
③ 体積の単位の関係	7	26	<p>◆問1では、まず、正方形の面積や立方体の体積を求める公式を確認する。</p>	<p>○1辺の長さが1cm、10cm、1mの正方形の面積や立方体の体積を求めて、長さ・面積・体積の単位の関係を調べる。</p>	<p>★長さや面積と体積の関係について考える。</p>
●練習	8	27		<p>○学習内容を確実に身につける</p>	→
学びのまとめ	9	28～29	<p>◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返る。</p> <p>◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。</p>	<p>○評価とふりかえり</p> <p>○「やってみよう」に取り組む</p>	<p>★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。</p>

3 比例

目 標			指導時数・時期		
○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して比例の意味を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			2時間 2学期制：5月上旬 3学期制：5月上旬		
評 価					
(知) ・比例の意味を知り、簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。					
(思) ・簡単な場合について、比例しているかどうかを判断している。					
(態) ・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して比例という数量関係の特徴を見いだすことによさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	254	◆4年「変わり方」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	30 31～32	◆「ともなって変わること」に着目する。	○レンガや植木鉢を積み重ねたときの高さの変わり方を考察することを通して、単元の課題をつかむ。	★身の回りから比例関係にあるものを見つける。
	2	33	◆イでは、比例のきまりを使って説明する。	○伴って変わる2つの数量の変わり方を調べて、比例する関係をとらえる。	★買うリボンの長さをいろいろに変えて、関係図や数直線図をかく。
				○比例のきまりをもとに、かけ算の式の意味をとらえ直すことができる。	
				○数直線図について知る。	

4 小数のかけ算

目 標		指導時数・時期			
○ 小数をかける計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		11 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬			
評 価					
(知) ・小数の乗法の意味やその仕方を理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。					
(思) ・小数の乗法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えている。					
(態) ・小数の乗法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して既習の比例や整数の乗法をもとにして考えることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	254	◆4 年「小数×整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	34	◆乗数が整数のときから類推して、ことばの式を使って立式する。	○生活場面から、小数をかけるかけ算について考えていくという単元の課題をつかむ。	★立式の理由を比例の学習から説明する。
①整数×小数		35	◆比例の学習を想起し立式の理由を説明する。	○(整数)×(帯小数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、理解することができる。	★数直線図や関係図をかけるようにする。
	2	36～37	◆問 2 では、まず、0.1m の代金を求めることを考え、はるやゆいのかえにつなげる。 ◆かずのかえが出ない場合には教師側から指導してもよい。	○(整数)×(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	★複数の計算の仕方を考える。 ★それぞれの考えのよさや共通点を話しあい、まとめる。
	3	38	◆問 4 は、数直線図を活用して積が 3 より小さくなることを確認する。 ◆かけ算の答えはいつもかけられる数より大きくなるとは限らないことを確認する。	○(整数)×(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	★各自課題に取り組み、積が 3 より小さくなる理由を話しあってもよい。
	4	39	◆前時の学習を活用して積が正しいかどうか判断する。	○乗数の大きさによって、被乗数と積の大小関係を判断することができる。	★かけ算の積の大きさを求め自分の言葉でまとめる。
②小数×小数	5	40	◆整数×整数に帰着する。 ◆問 3 の①や問 4 の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 7 時で扱うことも可)	○(小数)×(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	★小数×小数の計算の仕方を自分の言葉でまとめる。 ★p.259「もっと練習」の問 7 に進む。
	6	41	◆常に整数×整数と結びつけるよう丁寧に指導する。 ◆問 3 の①や問 4 の①や③で筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 7 時で扱うことも可)	○小数をかけるかけ算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★小数×小数の筆算の仕方を自分の言葉でまとめる。 ★p.259「もっと練習」の問 9 に進む。
	7	42	◆積の小数点の位置に着目して 0 を処理することを丁寧に指導する。 ◆問 6 の①や⑤、問 8 の①を丁寧に筆算する。	○積の末尾の 0 を消したり、積に空位の 0 をつけたしたりする場合の筆算の仕方を理解することができる。	★ p.259「もっと練習」の問 11 に進む。
●練習	8	43	◆問 4 は、いくつか絞って計算してもよい。	○学習内容を確実に身につける。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
③小数のかけ算を使って	9	44～45	◆問 1、2、3 では、電卓を用いたり、分担して取り組んだりする。 ◆問 2、3 は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。	○辺の長さが小数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを確かめることができる。	★「算数ポケット」の「1 辺が 0.1 cm の正方形・立方体」について友だち同士説明しあう。 ★p.259「もっと練習」の問 12 に進む。
	10	46～47	◆面積図からその立式の理由を考える。 ◆問 2 はアだけでもよい。 ◆問 3 は ㊦から ㊧のどれを使ったか説明する。	○小数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算することができる。	★問 3 の式のそれぞれに具体的な絵や図をかき、どのような場合に工夫できるか話し合う。 ★p.260「もっと練習」の問 14 に進む。
学びのまとめ	11	48～49	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童は「やってみよう」に取り組む	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

* 復習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	50～51	○既習事項の確認と持続

5 小数のわり算

目 標			指導時数・時期		
○ 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			12時間 2学期制：6月上旬～6月下旬 3学期制：6月上旬～6月下旬		
評 価					
(知) ・小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。 (思) ・小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えている。 (態) ・小数の除法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して既習の比例や整数の除法をもとにして考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	◆4年「小数÷整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	52	◆除数が整数のときから類推して、ことばの式を使って立式させる。	○生活場面から、小数でわるわり算について考えていくという単元の課題をつかむ。	★立式の理由を比例の学習から説明する。
①整数÷小数		53	◆比例の学習を想起し $\square \times 2.4 = 96$ から、立式の理由を説明する。	○(整数)÷(帯小数)の場面を式に表し、除法の意味について考え、理解することができる。	★数直線図や関係図をかけるようにする。
	2	54～55	◆ 問2 では、まず、0.1mの代金を求めることを考え、ゆいの考えにつなげる。 ◆その考えが出ない場合には教師側からわり算の性質を想起させ指導してもよい。	○(整数)÷(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	★複数の計算の仕方を考える。 ★それぞれの考えのよさや共通点を話しあい、まとめる。
	3	56	◆ 問4 は、数直線図を活用して商が720より大きくなることを確認する。 ◆わり算の答えはいつもわられる数より小さくなるとは限らないことを確認する。	○(整数)÷(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	★各自課題に取り組み、商が720より大きくなる理由を話しあってもよい。
	4	57	◆前時の学習を活用して商が正しいかどうか判断する。	○除数の大きさによって、被除数と商の大小関係が判断することができる。	★わり算の商の大きさを求め自分の言葉でまとめる。
②小数÷小数	5	58	◆整数÷整数に帰着する。 ◆ 問3 の①や 問4 の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第7時で扱うことも可)	○(小数)÷(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	★小数÷小数の計算の仕方を自分の言葉でまとめる。 ★p.260「もっと練習」の 問16 に進む。
	6	59	◆常に整数÷整数と結びつけるよう丁寧に指導する。 ◆ 問3 の①や 問4 の①や④で筆算の仕方を確認する。	○小数でわるわり算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★小数÷小数の筆算の仕方を自分の言葉でまとめる。 ★p.260「もっと練習」の 問18 に進む。
	7	60	◆小数点の位置に着目して0をつけたしてわり進むことを丁寧に指導する。 ◆ 問6 の①や③、 問8 の①を丁寧に筆算する。	○被除数に空位の0をつけたしてわり進む場合の筆算の仕方を理解することができる。	★p.261「もっと練習」の 問20 に進む
	8	61	◆ 問2 の①で余りの求め方を確認する。	○わり進む場合の筆算で、わり切れないときの商を概数で表すことができる。	★わり進んでもわり切れない場合の商の処理の仕方について話しあう。
	9	62	◆余りが21でいいかどうかを線分図で考える。 ◆筆算での余りの小数点の位置を丁寧に指導する。	○余りのあるわり算で、余りの大きさを正しく判断し、筆算で商と余りを求めることができる。	★余りは何mになるかを話しあう。 ★p.261「もっと練習」の 問22 に進む
●練習	10	63	◆ 問4 は、いくつか絞って計算してもよい。	○学習内容を確実に身につける。	★早く終わった児童はタブレット等を活用して発展問題に取り組む。
③計算の間の関係	11	64～65	◆線分図や関係図を見て数量の関係をとらえてから立式する。	○小数の加減や乗除についても、整数と同じ計算の間の関係が成り立つことを理解する。	★早く終わった児童はタブレット等を活用して発展問題に取り組む。
学びのまとめ	12	66～67	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童は「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

6 割合(1)

目 標					指導時数・時期
○ 割合や数量が小数で表された場面で、図や式を使って2つの数量の割合について調べたり考えたりすることを通して、小数倍の意味を理解するとともに、小数倍を使った計算を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月中旬
評 価					
(知) ・小数倍で表される数量の関係について理解し、問題を解決することができる。 (思) ・図や式を使って小数倍で表される数量の関係について考えている。 (態) ・割合や数量が小数で表された問題に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を小数倍で表して解決することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	◆4年「割合」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	68	◆問題文と関係図を対応させ立式し、テープ図で確認する指導を丁寧に行う。	○割合が小数で表された場面で、比較量と基準量から割合を求めることができる。	★身の回りにある同種の2つの量を取り上げ、問題を作り友だち同士で出しあう。
		69			
	2	70～71	◆この理解が困難な場合には具体的な数を入れて考えてもよい。(㊸、㊹)	○割合や数量が小数で表された場面で、比較量を求めることができる。	★もとにする量、くらべる量、割合の関係を図に表し説明する。
	3	72～73	◆問題文と関係図を対応させ立式する指導を一つ一つ丁寧に行う。	○割合や数量が小数で表された場面で、基準量を求めることができる。	★「算数ポケット」の「文と図と式」で㊸、㊹、㊺の数を変えて関係図、式、テープ図を表す。
学びのまとめ	4	74～75	◆図や関係図から問題の構造を読み取れるよう丁寧に指導する。	○ $a \times b \times c$ の場面で、まとめて何倍になるかを考え方で解くことができる。	★同じような問題を作り、友だち同士で解きあう。

7 合同な図形

目 標					指導時数・時期
○ 合同な図形や多角形の角の大きさについて、図形を重ね合わせる活動を通して合同の意味を理解し、合同な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の角の大きさを調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月上旬
評 価					
(知) ・合同の意味や性質を理解し、頂点、辺、角の対応を見つけて合同な図形を作図することができる。また、三角形や四角形の内角の和についても理解している。 (思) ・合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形の作図の仕方或多角形の内角の和を考えたり説明したりしている。 (態) ・平面図形の形や大きさに進んで関わり、ふり返りを通して構成要素に着目することのよさや三角形や四角形の場合のもとに多角形について考えていけばよいことに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	◆3年「三角形」、4年「角とその大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	76	◆まず予想させてから、㊻や㊼を切り取って重ねて調べていく。	○図形を重ね合わせる操作を通して、合同の意味を理解する。 ○合同な図形について調べていくという単元の課題をつかむ。	★「ずらす」「うら返す」「回す」などの操作をことばでまとめる。
		77			
	2	78～79	◆予想してから操作で確かめる。	○合同な2つの図形の頂点、辺、角の対応を調べ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。	★「対応する」について構成要素に着目してまとめる。
	3	80	◆予想してから操作で確かめる。	○長方形や正方形、平行四辺形、台形やひし形を対角線で分けてできた2つの三角形を、合同の観点で考察し、図形についての理解を深める。	★△2で正方形やひし形についても、対角線2本で切ったときにできる三角形が合同かどうかを調べ、その特徴をまとめる。
② 合同な図形のかき方	4	81	◆薄い紙に写し取り、3つの頂点が決まると合同な三角形をかくことができることを確認する。	・合同な三角形をかくための見通しを立て、いろいろなかき方を考えることができる。	★かき方のよさや共通点を話し合う。 ★p.261「もっと練習」の問23に進む。
		5	82～83	◆コンパスの使い方や分度器の使い方を確認する。	○合同な三角形のかき方を理解し、3つの方法で作図することができる。
	6	84	◆問4㉒は、平行四辺形の性質を想起する。	○合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、作図することができる。	★様々な三角形や四角形のかき方の習熟。
③ 三角形・四角形の角	7	85～86	◆問1では、㉑、㉒のいずれか一方の方法でもよい。	○三角形の敷き詰めや角を集める操作を通して、三角形の3つの角の大きさの和が 180° になることを理解する。	★特殊な三角形をかくて調べてもよい。(極端にとがっている、平ら等)
	8	87	◆問4、5では二等辺三角形やひし形の特徴をふり返りながら一つずつ丁寧に指導する。	○三角形の内角の和のきまりを適用して、様々な問題を解く。	★角の大きさを求めるだけでなく求め方の理由も記す。 ★p.261「もっと練習」の問24に進む。

	9	88～89	◆ 問1 では、児童に予想させた後、⑦の考え方を教師が示し、④は切り取らず三角形の角の大きさの和が180°であることを活用するよう指示し児童に取り組みさせる。	○三角形の内角の和が180°であることをもとに、四角形の内角の和をいろいろに考えて求めることができる。	★複数の説明の仕方を考え、よさや共通点を話しあう。 ★p.262「もっと練習」の 問25 に進む。
	10	90～91	◆多角形に三角形がいくつあるかを順序よく考える。	○多角形について知り、三角形の内角の和が180°であることをもとに、多角形の内角の和について調べる。	★複数の解決の仕方を考え、よさや共通点を話しあう。 ★n角形のときの角の大きさの和を、式でどのように表すことができるかを考え、話しあう。
学びのまとめ	11	92～93	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童は「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

思 見方・考え方を深めよう「もう1回!もう1回!」

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、数量の関係を表に整理してその増え方に着目して解法を考えることを通して、数の少ない場合から順に調べる考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
評 価					
(知) ・伴って変わる2つの数量の関係を表に整理することができる。					
(思) ・図や表をもとに考え、2つの数量の間のきまりを見いだしている。また、「数の少ない場合から順に調べる」ことのよさに気づき、これを活用して問題を解いている。					
(態) ・伴って変わる2つの数量に関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を表に整理して考えることよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	94	◆実物の紙を用意し調べながら表にかく。 ◆できた表からきまりを見つける。	○紙を折ってできる長方形の数について、折った回数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	★実態によっては△2から始めてもよい。自力解決や話し合いの中で 問1 の表を活用する。
	2	95	◆実物の色板を用意し調べながら表にかく。 ◆できた表からきまりを見つける。	○階段状に色板を並べるときの枚数について、段の数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	

活 どんな計算になるのかな「金閣の金箔」

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
●どんな計算になるのかな	1	96～97	◆問題文が複雑なので1つずつ丁寧に図などを添えて説明する。 ◆概数の求め方を確認する。	○根拠にもとづいて、小数のかけ算やわり算の演算決定をすることができる。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
●算数の自由研究	1	98～99	◆実際の研究の手順に従って1つか2つの多角形を例として取り上げ確認していく。	○「しきつめもよう」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	★「もようづくり」や「まほうじん」など他のテーマについてもふれる。

* 復 習

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1		◆すべてを解く必要はない。まず、まちがいやすい問題を全員で取り組み後から残りを行うなどの工夫が必要である。	○既習事項の確認と持続	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

8 整数					
目 標					指導時数・時期
○ 整数の性質について、偶数・奇数や倍数・約数の意味を理解し、倍数や約数の求め方を考えたりそれらを使って問題解決したりすることを通して整数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：9月上旬～9月中旬 3学期制：9月上旬～9月中旬
評 価					
(知) ・偶数・奇数の意味や倍数・約数などの意味を理解し、整数の性質についての理解を深め、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。					
(思) ・整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりしている。					
(態) ・偶数・奇数、及び、倍数・約数に進んで関わり、ふり返りを通して整数の性質に着目して多面的にとらえることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	◆3年「わり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	102	◆導入では、実際にカードを用意しておき、交互に赤白に割り振りその数の集まりの特徴を考える。	○組分けの仕方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	★p.262「もっと練習」の問26に進む。
①偶数・奇数		103		○整数を偶数と奇数という観点から類別できることを理解する。	
②倍数と公倍数	2	104	◆半具体物などで具体的な操作をしながら考える。	○倍数の意味を理解し、いろいろな数の倍数を調べる。	★公倍数が最小公倍数の倍数になっていることを、いろいろな2数で調べて話しあう。
	3	105	◆半具体物などで具体的な操作をしながら考える。	○公倍数や最小公倍数の意味を理解し、公倍数や最小公倍数について調べる。	★手際の良い方法を考える。 ★3つ以上の数についても考える。
	4	106	◆理解が厳しい児童は2数の倍数を取り上げて理解させても構わない。	○公倍数や最小公倍数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	★p.262「もっと練習」の問27に進む。
	5	107	◆実際の長方形のタイルを提示し、イメージをもたせる。	○与えられた2つの数量の公倍数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
③約数と公約数	6	108	◆半具体物などで具体的な操作をしながら考える。	○約数の意味を理解し、いろいろな数の約数を求める。	★公約数は最大公約数の約数になっていることを、いろいろな2数で調べて話しあう。
	7	109	◆半具体物などで具体的な操作をしながら考える。	○公約数や最大公約数の意味を理解し、公約数や最大公約数について調べる。	★手際の良い方法を考える。 ★3つ以上の数についても考える。 ★p.262「もっと練習」の問28に進む。
	8	110	◆理解が厳しい児童は2数の約数を取り上げて理解させても構わない。	○公約数や最大公約数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	★p.262「もっと練習」の問29に進む。
	9	111	◆方眼黒板などを提示し、問題の意味をしっかりとつかませる。	○与えられた2つの数量の公約数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	★p.262「もっと練習」の問30に進む。
学びのまとめ	10	112～113	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ◆早く終わった児童は「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

9 分数					
目 標					指導時数・時期
○ 異分母分数の加減計算や商としての分数を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
評 価					
(知) ・分数の通分や約分の仕方を理解し、異分母分数の加減計算ができるようにする。					
・商としての分数や分数と小数・整数の関係、何倍かを分数で表すことについて理解している。					
(思) ・単位分数に着目して異分母分数の加法や減法の計算の仕方を考えている。					
・わり算の商や小数や整数、何倍かを表す数を分数で表す方法について考え、分数の意味を多面的にとらえている。					
(態) ・分数の相当や加減計算、分数を用いる場面に進んで関わり、ふり返りを通して通分や約分の仕方や分数の意味を多面的にとらえることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	◆4年「分数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	114	◆導入では、同分母分数や同分子分数、異分母同値分数を取り上げ確認する。	○分数の大きさ比べゲームを通して、分数について考えていくという単元の課題をつかむ。	★①と④から自分の言葉で等しい分数のつくり方をまとめる。
①等しい分数		115～116	◆分数の数直線を観察し等しい分数のつくり方を考える。	○等しい分数のつくり方とその性質について理解する。	

	2	117	◆問3の①③で約分の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) ◆約分の表記の仕方をしっかりおさえる。	○等しい分数の性質をもとに、約分の意味とその仕方について理解する。	★効率よく約分する仕方について話しあう。 ★p.263「もっと練習」の問31に進む。
	3	118	◆倍数を想起し等しい分数のつくり方を丁寧に確認する。	○等しい分数の性質をもとに、通分の意味とその仕方について理解する。 ○異分母分数の大小比較ができる。	★効率よく通分する仕方について話しあう。
	4	119	◆最小公倍数を想起し等しい分数のつくり方を丁寧に確認する。	○通分の仕方について理解を深める。	★p.263「もっと練習」の問32に進む。
②分数のたし算・ひき算	5	120	◆問2の①⑤で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○異分母分数の加減計算の仕方を考え、理解することができる。	★p.263「もっと練習」の問33に進む。
	6	121	◆問4の①⑤で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) ◆約分を忘れやすいので常に分母と分子の公約数に着目させる。	○答えが約分できる場合や3口の場合の異分母分数の加減計算ができる。	★約分や手際のよい計算の仕方について考える ★p.263「もっと練習」の問34に進む。
	7	122	◆問8の①④で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の問4とあわせて扱うことも可)	○帯分数どうしの加減計算の仕方を考え、理解することができる。	
●練習	8	123	◆すべてを解く必要はない。実態に応じて丁寧に練習する。	○学習内容を確実に身につける。	★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
③わり算と分数	9	124～125	◆2÷3をリットルますの図を使って丁寧に指導する。	○(整数)÷(整数)の商を分数で表せることを理解する。	★「算数ポケット 等しい分数とわり算の性質」を友だち同士説明しあう。
④分数と小数・整数の関係	10	126	◆分子が分母でわり切れない分数があることを確認する。	○分数を除法の商と見て、分数を小数で表すことができる。	★p.263「もっと練習」の問35に進む。
	11	127	◆0.1、0.01、0.001のいくつかを考える。	○整数・小数を分数で表す方法を考え、分数と整数・小数を数として統合的にとらえる。	★p.263「もっと練習」の問36に進む。
	12	128～129	◆関係図から立式し小数倍で表せないときは分数倍で表してよいことを確かめる。	○何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解する。	★p.264「もっと練習」の問37に進む。
学びのまとめ	13	130～131	★余裕ある場合には「やってみよう」に取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組み、ちがう時間の問題をつくりたり、友だちと出しあったりする。

* 復習

小単元		時	ページ	目標	指導時数・時期
				補充コース	基本コース
				発展コース	
		1		◆すべてを解く必要はない。まず、まちがいやすい問題を全員で取り組み後から残りをを行うなどの工夫が必要である。	○既習事項の確認と持続 ★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

10 面積

小単元		時	ページ	目標	指導時数・時期
				補充コース	基本コース
				発展コース	
				○ 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	14時間 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月中旬～11月上旬
				評 価 (知)・底辺と高さの意味や公式について理解し、三角形や四角形の面積を求めることができる。 (思)・既習の面積の求め方をもとに三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えたり、求積方法をふり返って公式を導いたりしている。 (態)・三角形や平行四辺形などの面積を求める活動に進んで取り組み、ふり返りを通して面積の求め方や公式のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。	
				目 標	指導時数・時期
小単元		時	ページ	補充コース	基本コース
				発展コース	
じゅんぴ		—	256	◆4年「面積」、「垂直◆平行と四角形」、5年「合同な図形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)		1	134	◆導入では、長方形と正方形の面積	○直角三角形の面積の求め方を考え ★p.134～135の図形を見て、どの

①三角形の面積		135～136	の求め方を確認する。	ることができる。 ○三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかむ。	順に考えていけばよいかの見通しを立てる。
	2	137	◆面積が求められる既習の図形に変形できないか考える。	○三角形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話し合う。
	3	138～139	◆p137のはるやゆいの考えからどの長さがわかればよいか確認し公式に導く。	○三角形の求積公式を導く。	★「算数ポケット」の「三角形の底辺と高さ」を参考に自分で作った三角形で底辺と高さを変えて面積を比べる。 ★p.264「もっと練習」の問38に進む。
②平行四辺形の面積	4	140～141	◆これまでの長方形や三角形の求積公式をおさえる。 ◆長方形への変形は理解しづらい児童は、操作活動をする。	○平行四辺形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話しあう。
	5	142～143	◆p142のかずやゆいの考えからどの長さがわかればよいか確認し公式に導く。	○平行四辺形の求積公式を導く。	★p142の下段を参考に自分で作った平行四辺形で底辺と高さを変えて面積を比べる。 ★p.264「もっと練習」の問39に進む。
	6	144～145	◆㊦や㊧のような具体的な操作活動をする。	○高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え、求積公式が適用できることを理解する。	★複数の解決方法を考え、もとの求積公式に統合されることを説明する。 ★p.264「もっと練習」の問40に進む。
	7	146	◆使っている長さや面積に着目し面積が等しくなることを確かめる。	○底辺の長さが等しく、高さも等しい三角形や平行四辺形は、面積も等しくなることを理解する。	★面積が等しくなることを自分の言葉で説明する。 ★p.265「もっと練習」の問42に進む。
③台形・ひし形の面積	8	147～148	◆面積が求められる既習の図形に変形できないか考える。	○台形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話しあう。
	9	149	◆まず、p148のゆいの考えから求積公式を導く。	○台形の求積公式を導く。	★p149の3人の式が求積公式になる過程を話しあう。 ★p.265「もっと練習」の問43に進む。
	10	150	◆面積が求められる既習の図形に変形できないか考える。 ◆まず、p150のはるの考えから求積公式を導く。	○ひし形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○ひし形の求積公式を導く。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話しあう。 ★p150の2人の式が求積公式になる過程を話しあう。 ★p.265「もっと練習」の問44に進む。
●練習	11	151	◆どの長さを使うかを明確にして、丁寧に取り組む。	○学習内容を確実に身につける。	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。
④面積の求め方のくふう	12	152～153	◆面積が求められる既習の図形に分割できないか考える。	○一般四角形の面積を三角形に分割して求めることができる。	★p153△3で一般の三角形の面積をいろいろに考え比べ話し合う。
⑤面積の比例	13	154	◆比例の意味を想起する。	○三角形の高さや底辺の長さを変えたとき面積の変わり方を調べる。	★「平行四辺形や台形でも調べてみたい」という疑問をもち主体的に取り組む。
学びのまとめ	14	155～156	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

11 平均とその利用

目 標		指 導 時 数 ・ 時 期			
○ 平均について、その意味や求め方を理解し、いろいろな場面で平均を調べたり平均を使って考えたりすることを通して、その理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		6時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬			
評 価					
(知) ・平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均を用いておよその数量を見積もったりすることができる。					
(思) ・部分の平均を用いて、全体の量を見積もる方法や全体の平均を求める方法を考えている。					
(態) ・数量の平均に進んで関わり、ふり返りを通して平均とそれを利用することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	256	◆4年「小数÷整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	157	◆p157のゆいとはるの考え方に照らし合わせてならしたときの大きさを求める。	○生活場面で量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○平均の意味や求め方について理解する。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話し合う。 ★p.266「もっと練習」の問45に進む。
①平均		158			

	2	159	◆平均における0や小数の処理について確認する。	○0を含む場合の平均の求め方や平均が小数になる場合があることを理解する。	★0があるときの平均や平均が小数になることについて話し合う。
	3	160	◆いくつかの量の平均から全体の量を知るための考え方について確認する。	○いくつかの平均から全体を見積もる方法を理解する。	★全体の量がどれだけになるか予想する方法を考える。 ★p.266「もつと練習」の間46に進む。
	4	161	◆グループごとの平均から全体の平均を求める考え方について確認する。	○いくつかの部分の平均から、部分を合わせた全体の平均を求める方法を理解する。	★グループごとの平均をあわせて2でわる考え方と全体の個数と人数を求めてから全体の平均を求める考え方のちがいについて話し合う。
②平均を使って	5	162～163	◆歩はばを求めるためには、何回かはかってその平均をとればよいことに気付く。 ◆算数ポケット「大きくはなれた記録のあつかい」について知る。	○測定値の誤差をなくす方法として平均を用いればよいことに気づき、それを活用する。	★「算数ポケット」の「平均の求め方のくふう」で、仮平均を利用する方法を知り、活用する。 ★「算数ポケット」の「大きくはなれた記録のあつかい」について知る。
学びのまとめ	6	164～165	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返る。 ◆やってみように取り組む。(時間があれば校内で試してみる。あるいは安全に気をつけて登下校の際に道のりを調べる。)	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★時間があれば校内で試してみる。あるいは安全に気をつけて登下校の際に道のりを調べる。

12 単位量あたりの大きさ

目 標					指導時数・時期
○ 混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬
評 価					
(知) ・単位量あたりの大きさの意味や求め方を理解し、単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいなどを比べたりすることができる。					
(思) ・2つの数量が関係していることに着目し、混みぐあいなどの比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って程度の大小を表したり、判断したりしている。					
(態) ・単位量あたりの大きさに進んで関わり、ふり返りを通して一方の量を単位として混みぐあいなどを判断することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
目 標					指導時数・時期
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	256	◆4年「小数÷整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	166 167～168	◆導入で、混みぐあいは人数と広さが関係していることをとらえる。	○混みぐあいの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○単位量あたりの大きさを混みぐあいを比べることができる。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話し合う。 ★p.168 エマのつぶやきについて考え話し合う。
	2	169	◆2つの考え方があるが計算しやすい1分あたりの枚数を計算し比べる。	○数量の関係をもとに単位とする方の量を決め、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。	★1分あたりの枚数が計算しやすいが分を秒に換算して計算することも試してみる。 ★p.266「もつと練習」の間47に進む。
	3	170	◆電卓を活用する。 ◆人口密度のきまりについて確認する。 ◆四捨五入について想起する。	○単位量あたりの大きさのよさに気づき、人口密度や燃費といったよく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。	★p.266「もつと練習」の間48に進む。
学びのまとめ	4	171	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

思 見方・考え方を深めよう「遊園地へゴー！」					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、問題場面を図に表して同じものに注目して解法を考えることを通して、相殺や置換の考え方を活用して解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬	
評 価					
(知) ・相殺や置換の考え方を理解し、それを用いて問題を解決することができる。					
(思) ・2 つの場面を図に整理して数量の大きさとして等しくなる部分を見だし、それに注目して問題を解決する方法を考えている。					
(態) ・未知の数量が組み合わさった場面に関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して相殺や置換のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	172	◆数量の関係を図に表しじっくりと観察する。 ◆同じものに注目し、差し引いて考える。	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して相殺の考え方を活用して問題を解くことができる。	★数量の関係を図に表し、そこから立式し説明できるようにする。
	2	173	◆数量の関係を図に表しじっくりと観察する。 ◆同じものに注目し、おきかえて考える。	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して置換の考え方を活用して問題を解くことができる。	★数量の関係を図に表し、そこから立式し説明できるようにする。

13 割合(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増減する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：11 月下旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬	
評 価					
(知) ・割合の意味や百分率などを用いた表し方を理解し、数量の関係を正しくとらえて割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。					
(思) ・数量の割合に着目し、割合を用いて複数の事象の数量の関係を比較したり、割合の和や差、積を考えたりしている。					
(態) ・割合の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の割合で表すことや何倍になるかをまとめて考えることよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	256	◆4 年「割合」、5 年「小数のかけ算」、「小数のわり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	174	◆導入では、割合を求めるには関係図から式を導き何倍かを求めればよいことを確認する。	○定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○割合の意味について理解し、割合を求めることができる。	★関係図とテープ図、式との関係を説明できるようにする。
①割合		175			
	2	176	◆割合を求めるには関係図から式を導き何倍かを求めればよいことを確認する。	○全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。	★関係図と線分図、式との関係を説明できるようにする。 ★p.267「もっと練習」の問 49 に進む。
	3	177	◆比較量を求めるには関係図から式を導き何倍かを求めればよいことを確認する。	○全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。	★関係図と線分図、式との関係を説明できるようにする。 ★p.267「もっと練習」の問 50 に進む。
	4	178～179	◆基準量を求めるには関係図から式を導き何倍かを求めればよいことを確認する。	○全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。	★関係図と線分図、式との関係を説明できるようにする。 ★p.267「もっと練習」の問 51 に進む。 ★「算数ポケット」の「文と図と式」について説明する。
②百分率	5	180	◆割合を百分率で表すには、倍に 100 をかければよいことを確認する。	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 ○割合を求め、百分率で表すことができる。	★倍から百分率、百分率から倍へすぐに読み替えることができる仕方を言葉で表す。
	6	181	◆百分率を倍で表し関係図から立式し基準量や比較量を求める。	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。	★p.267「もっと練習」の問 53 に進む。
	7	182	◆倍を百分率と歩合で表すことができるようにする。	○歩合を使って、割合を表すことができる。	★倍から百分率や歩合へすぐに読み替えることができる仕方を言葉で表す。
③割合を使って	8	183	◆基準量がちがうときに、割合を使って増減を比べることができるようにする。	○基準量が違うときに、割合を使って増減を比べることができる。	★差と割合の比べ方を比較しよきや共通点を話しあう。

	9	184	◆線分図をかき何割引きの意味を確認する。	○歩合の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。	★複数の解決方法を考え、よさや共通点を話しあう。 ★p.268「もっと練習」の問55に進む。
	10	185	◆線分図をかき何%増量の意味を確認する。	○百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。	★p.268「もっと練習」の問57に進む。 ★「算数ポケット」の「消費税」について線分図や関係図を使って説明する。
学びのまとめ	11	186～187	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」を参考にして問題をつくり解きあう。

活 人文字					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	188～189	◆3年「間の数」を想起し長さとの数の関係をとらえなおす。 ◆なるべく具体的な図に表し考える。	○文字の形になるように一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係を図に着目して、問題を解く。	★HやOの人数の数え方をもとに、Eやその他のアルファベットの人数が何人になるかを説明する。

活 見積もりを使って「見積もりを使って」					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	190～191	◆棒グラフを使って1000との差をさしひいて見積もることをイメージする。	○ある数量以上の部分とそれ以下の部分を差し引いて結果を見積もり、判断することができる。 ○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	★「算数ポケット」の「切り上げ・切り捨てを使った見積もり」で、具体的にどのような場面で活用できるか考え話しあう。

* 復 習					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	192～193	◆すべてを解く必要はない。まず、まちがいがやすい問題を全員で取り組み後から残りをを行うなどの工夫が必要である。	○既習事項の確認と持続	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

14 円と正多角形					
目 標					指導時数・時期
○ 円と正多角形について、正多角形の構成や作図などの活動や円周の求め方を考えるといったことを通して、平面図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
評 価					
(知) ・正多角形の意味や性質について理解し、作図することができる。 ・円周率の意味を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。					
(思) ・円や正多角形の性質に着目し、正多角形の作図の仕方を考えている。 ・円周と直径の関係に着目し、帰納的に考えて円周率を見いだしたり、円周や直径の求め方を考えたりしている。					
(態) ・正多角形や円の考察に進んで関わり、ふり返りを通して正多角形の作図の仕方や円周率のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	256	◆3年「円と球」、5年「合同な図形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	194	◆導入では、実際に紙に円をかいて折り、切る活動を行う。その際、コンパスの使い方を確認する。	○紙を折って正多角形をつくり、正多角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	★導入では、紙に円をかいて折り、一度だけ切って、正方形や正六角形や正八角形をつくる方法を考える。
①正多角形		195	◆問1の学習を通して、多角形と正多角形の違いを明らかにする。		
	2	196	◆問2では、分度器の使い方を確認しながら取り組む。	○円の中心のまわりの角を等分して正多角形をかく。	★正三角形や正四角形、正七角形も正六角形をかく方法で取り組む。
	3	197	◆問5では、長さをはかり取るコンパスの使い方を確認しながら取り組む。	○コンパスを使った正六角形の作図を通して、正六角形は合同な6つの正三角形で構成されることを知る。	★正六角形がかけるわけを自分で考え説明できるようにする。 ★問7を発展させて、他の正多角形でいろいろな模様づくりに取り組む。
(課題設定)	4	198	◆前時を想起し正六角形のまわりの	○直径の違う輪を1回転させて進む	★円周は直径の3倍より長くなる

②円周と直径		199	長さは直径の何倍になるかを考える。	距離を比べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○円に内接する正六角形について、周りの長さが直径のおよそ何倍かを調べる。	ことを自分で図や言葉を用いて説明する。
	5	200～201	◆問2では、円周÷直径の計算に電卓を使ってもよい。	○円周と直径の関係について調べ、円周率や円周を求める式について理解する。	★測定誤差をなるべくなくするための方法として、何度か測定して平均を利用すればよいことに気づかせる。 ★算数ポケット「円周率」を読み、アルキメデスが発見した分数を小数に直し比べる。
	6	202	◆問3では、円周÷直径、直径×3.14の計算に電卓を使ってもよい。	○円周率を用いて円周や直径を求めることができる。	★p.268「もっと練習」の問58に進む。
③円周と比例	7	203	◆問1では、まず、円周を求める公式を確認する。	○円の直径と円周の関係を表にかいて調べ、円周は直径に比例することを理解する。	★△2△3について答えだけでなく理由も記す。
学びのまとめ	8	204～205	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ★早く終わった場合にはやってみように取り組む。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」では他の正多角形でも考える。 ★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

15 割合のグラフ

目 標					指導時数・時期
○身のまわりの事象について、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
評 価					
(知)・身のまわりの事象について、データの割合を表すには帯グラフや円グラフを用いるとよいことを理解し、帯グラフや円グラフをよんだりつくったりすることができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。					
(思)・目的にあわせて、データの収集・整理の仕方を考えたり、帯グラフや円グラフを適切に用いてデータの特徴を判断したりしている。また、得られた結果を多面的にとらえて結論について考察している。					
(態)・データの割合について進んで関わり、帯グラフや円グラフを使ってデータを整理することや結果を多面的にとらえることよさに気づき、統計的な問題解決を生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ (課題設定)	—	257	◆5年「割合」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
①帯グラフと円グラフ	1	206	◆導入では、表の収穫量から全体に対する割合をどのように求められるかを確認する。	○帯グラフや円グラフについて調べていくという単元の課題をつかむ。	★p.269「もっと練習」の問59に進む。
		207	◆問1では、都道府県の割合を電卓を使って確かめる。	○帯グラフと円グラフの仕組みを理解し、それらのグラフをよむことができる。	
	2	208～209	◆割合を求める計算に電卓を使ってもよい。	○帯グラフと円グラフをかく。	★帯グラフや円グラフをみて、どんなことがわかるかを話し合う。 ★p.269「もっと練習」の問60に進む。
	3	210～211	◆問1の④では、どの資料を見ればよいかを1つずついいねいに確認しながら、全体で学習を進める。	○複数のグラフから情報を適切によりみとることができる。	★問1の④では、答えについて自分で説明ができるようにする。
②帯グラフと円グラフを使って	4	212～213	◆前時までの学習を想起し、支援を受けながら統計的な解決をはかりまとめることを体験する。	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりの課題解決にいかそうとする。	★前時までの学習を想起し、自ら課題をみつけ統計的な解決をはかりまとめることを体験する。
学びのまとめ	6	214～215	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組み、年別に並べるよさについて話し合う。

* 復習

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1		◆すべてを解く必要はない。まず、まちがいやすい問題を全員で取り組み後から残りを行うなどの工夫が必要である。	○既習事項の確認と持続	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

16 角柱と円柱

目 標	指導時数・時期
-----	---------

○ 角柱や円柱について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬
評 価					
(知)・角柱や円柱の意味やその特徴について理解し、角柱や円柱の見取図・展開図をかくことができる。 (思)・立体図形の構成要素に着目し、角柱や円柱の特徴や見取図・展開図のかき方を考えている。 (態)・角柱や円柱の考察に進んで関わり、ふり返りを通して立体図形の構成要素や展開図を組み立てたときに重なる点や辺に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	257	◆4年「直方体と立方体」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	218	◆立体模型を用意しておき、観察させる。	○形あてゲームを通して、角柱や円柱について調べていくという単元の課題をつかむ。	
① 角柱と円柱	2	220～221		○底面や側面の形、それらの位置関係を調べることを通して、角柱、円柱について理解する。	★辺の相等や平行に着目させ、五角柱や六角柱の簡単な見取り図をかけるようにさせる。
②見取図とてん開図	3	222	◆辺の相等や平行に注意するように促す。	○角柱や円柱の見取図をかくことができる。	
	4	223	◆側面の長方形の横の長さについて立体模型を使って考えさせる。	○角柱の展開図のかき方を理解し、展開図を組み立てて角柱をつくることができる。	△2では、展開図をかいたあと、組み立てて角柱をつくる。 ★p.270「もっと練習」の問61に進む。
	5	224	◆側面の円と接する長さについて立体模型を使って考えさせる。	○円柱の展開図のかき方を理解し、それを組み立てて円柱をつくることができる。	△4では、展開図をかいたあと、組み立てて角柱をつくる。 ★p.270「もっと練習」の問62に進む。
学びのまとめ	6	225	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む。

17 速 さ					
目 標					指導時数・時期
○ 速さについて、その比べ方や表し方を考えたり、いろいろな速さに関する問題を解決したりすることを通して、速さ・道のり・時間の関係の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬
評 価					
(知)・速さの意味や求め方を理解し、速さを時速、分速、秒速などの単位を用いて表したり比べたりすることができる。 (思)・単位量あたりの考え方をもとに道のりと時間の関係に着目し、速さの表し方を考えたり、道のりや時間の求め方を考えたりしている。 (態)・速さに進んで関わり、ふり返りを通して単位時間に進んだ道のりを速さとする事のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	257	◆5年「単位量あたりの大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	226	◆導入では、速さは時間と道のりという2量の関係からとらえられることを確実におさえる。	○時間と道のりの関係として速さがとらえられることを知り、単元の課題をつかむ。	★1秒間あたりの道のりで比べてときと、1mあたりの時間で比べてときの違いやそれぞれのよさについて話しあう。
		227	◆単位量あたりを求める計算に電卓を使ってもよい。	○単位量あたりの大きさをを使って、速さを比べることができる。	
	2	228	◆時速、分速、秒速の違いを確実におさえ、問3では答え方に注意させる。	○速さの表し方を理解し、時間の単位に応じて適切に表すことができる。	★△3の①から③で時速、分速、秒速を求める。 ★p.270「もっと練習」の問63に進む。
	3	229	◆問1の④では、まず、3時間30分を3.5時間としてよい理由をおさえる。	○速さと時間から、その道のりを求めることができる。	★p.270「もっと練習」の問64に進む。 ★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む
	4	230	◆時間を□として、 $25 \times \square = 300$ というように立式して考えることも認める。	○道のりと速さから、その時間を求めることができる。	★p.270「もっと練習」の問65に進む。 ★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む
	5	231	◆時間の単位換算を確認する。	○時速と分速と秒速との相互の関係を理解し、いろいろな速さを比べることができる。	★問3でみつけた身のまわりの速さを使って、問題づくりに取り組む。 ★p.270「もっと練習」の問66に進む。
学びのまとめ	6	232～233	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★早く終わった場合にはタブレット等を活用して発展問題に取り組む

18 変わり方

目 標					指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量について、その関係を○や△を使って式に表したり表に整理して変わり方を調べたりすることを通して、変化の特徴をとらえたり比例するかどうかを判断したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					3時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
評 価					
(知) ・伴って変わる2つの数量の関係を、○や△を使って式に表したり、表にかいて変わり方を調べたりすることができる。					
(思) ・伴って変わる2つの数量を見いだして、その関係を式や表を用いて考えたり、比例するかどうかを判断したりしている。					
(態) ・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して○や△を使ってその関係を式に表すことや表を用いて考察することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	257	◆4年「変わり方」、5年「比例」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	234	◆導入では、具体的な3つの場面で、何が変化しているかに気づかせる。	○和暦と西暦の関係を調べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○差一定の2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	★導入では、具体的な3つの場面で、それぞれどんな問題がつけられそうかを考える。
		235			
	2	236～237	◆具体的な場面を取り上げながら④の表から取り組んでもよい。	○比例する2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	★比例について、④だけでなく⑤での結果も含めて、ことばでまとめる。
	3	238～239	◆具体的な場面を取り上げながら表から取り組んでもよい。	○やや複雑な2量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	★「算数ポケット」の「多角形の頂点の数と角の大きさの和の関係」で、表にある数値を $180 \times (\text{○} - 2) = \Delta$ にあてはめて、頂点の数と内角の和の関係を確かめる。また、この式になるわけについて話しあう。

思 見方・考え方を深めよう「いつ会える？」

目 標					指導時数・時期
○ 速さの文章題において、時間と道のりの関係を表に整理して道のりの和や差の変化に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりを見つけて解くことができるようにするとともに、用いた見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価					
(知) ・時間と道のりの関係や道のりの和や差の変化を表に整理することができる。					
(思) ・絵や表をもとに考え、道のりの和や差の変化のきまりに着目し、これを活用して問題を解決している。					
(態) ・速さに関する問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係や変化を表に整理して考えることや表からきまりを見いだすことよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	240	◆何がわかればよいかを確認し、表を作成する。また、変わり方のきまりに目をつけて考えさせる。	○出会うまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決する。	★問1と同じ場面で、速さや道のりを変えた問題をつくり友だち同士で解きあう。
	2	241	◆何がわかればよいかを確認し、表を作成する。また、変わり方のきまりに目をつけて考えさせる。	○追いつくまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決できる。	★問3と同じ場面で、速さや時間を変えた問題をつくり友だち同士で解きあう。

活 わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	学習内容
	1	242～243	○直進と回転の命令を組み合わせて、正多角形を作図するプログラムをつくる。

活 わくわくSDGs

小単元	時	ページ	学習内容
●わくわくSDGs	1	244～247	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、エネルギーについての問題を解決する方法を缶ゲル。 ○エネルギーについての課題を話し合い、課題解決に向けた計画を考える。

* もうすぐ6年生(5年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	248～249	○5年生の学習内容の確認と持続
	2	250～251	
	3	252	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
	・じゅんぴ
	・もっと練習
	・算数資料集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。